

生徒指導の機能を生かす

- ◇ 『生徒指導』というと、どういうわけか子どもたちの悪い面を捉えて注意していくことのように捉えられがちですが、それはどうも間違った見方のようにです。生徒指導提要（平成22年発行）の中に次のように書かれています。

生徒指導とは、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動である。

さらに、次のように紹介されています。

「課題解決的な指導」

深刻な問題行動や悩みを抱え、なおかつその悩みに対するストレスに適切に対処できないような特別に支援を必要とする児童生徒に対して、課題解決に焦点を充てたもの

「予防的な指導」

一部の児童生徒を対象に、深刻な問題に発展しないように、初期段階で諸課題を解決することをねらいとしたもの

「成長を促す指導」

すべての児童生徒を対象に、個性を伸ばすことや、自身の成長に対する意欲を高めることをねらいとしたもの

これは、学級づくりにおける生徒指導のみならず、「授業における生徒指導」というものも含んだものなのです。この辺りを明らかにしたいと思いつつ、いくつか紹介してみます。

- ◇ 生徒指導の概念から見てみましょう。千葉大の坂本氏は、次のように述べられています。

生徒指導は、個々の児童生徒の自己指導の能力の育成を目指すものである。

「新教育学大事典（第一法規）」

また、「生徒指導とは、すべての教育活動に機能（はたらく）重要なものである」ということです。生徒指導といえば、問題行動の時に機能するという思い込みがあったのですが、そうではなく、例えば漢字の書き取りや詩の鑑賞をする時にも機能するということなのです。この機能（はたらき）の内容について、次の3つが挙げられています。

(1) 自己決定の場を与える。

(2) 自己存在感を与える。

(3) 共感的関係をつくる。

「新教育学事典（第一法規）」

静岡県の高洲南小では、これらを噛み砕いて、実践におろして研究していました。ここでは「生徒指導の機能を生かす授業づくり」について研究されており、次のようにまとめられています。

生徒指導は、学校教育のあらゆる場に作用する「機能」としての特質を持っている。
(中略) そのはたらき(機能)の内容は何かというと、児童の主体性と独自性(個別性)ができるだけ十分に発揮できるようにすることである。(中略) 私たちは、生徒指導の主な機能を5つに絞り、一人一人の子どもが主人公になるような取組を行っている。

【生徒指導 5つの柱】

- ① 自己決定の力を育てる。
- ② 相手とのかかわりで行動する。
- ③ 個が存在感を持つように指導する。
- ④ 子どもがその発達の可能性を最大限発揮できるような場を設定する。
- ⑤ 人間的ふれあいが感じられる場を用意する。

「感動ある学習の創造(高洲南小《文教書院》)」P40

これをもとに、先に述べた「生徒指導の機能」について、もう少し詳しく考えてみます。

▼自己決定の場を与える

*学習の場、生活の場で、自分で考えを決めるという経験をさせることになります。そのことによって、「自己決定の力」を育てていこうというものです。自己決定をすることで、子どもたちの決断力・判断力を高めることにつながるものでもあります。自分で決めるということです。言動に対して責任をとることを学ばせることにもつながると考えられます。

▼自己存在感・自己有用感を与える

*自己存在感・自己有用感を与えるということは、子どもたちの積極性・責任感を育てることにつながります。具体的な特活の場として委員会活動・清掃活動・給食活動・行事などが考えられます。また、特活の場面だけでなく学習の場でも子どもがその発達の可能性を最大限発揮できるような場を設定することが大事です。そのような中で、子どものよさを価値づけるようにしていきます。

*存在感・有用感は子どもの学級や学校での『居場所』につながるキーワードです。個が存在感を持つように指導することで、ポジティブな生き方ができるようになると考えられます。ポジティブはポジション(いばしょ)なくして発揮できないのです。

▼共感的人間関係を育成する

*これは学級でのつながりを意識させることです。これこそ、イジメを回避できる手段になり得ます。相手とのかかわりで行動することを学ばせることで、子ども同士のトラブル、子どもと教師間のトラブルの解決が早まることが期待できます。

*子どもと教師との共感的人間関係をつくるためには、いけない行為をした子どもに対して、その行為を責める前に、その裏にある子どもの思いに寄り添うことも大切です。つまり、教師と子どもの信頼関係の問題です。

*学習の場であれば、友だちとのかかわり、学び合いなどを大事にして、人間的ふれあいが感じられる場を用意することが大切です。

- ◇ 「生徒指導は機能である」ということを知り、私自身、生徒指導についての見方が変わったことを覚えています。先生方がそのことを知ることによって、生徒指導に対する考え方がきっと変わると思います。生徒指導の機能を考えた時、どんな授業づくりが可能か? どんな学級経営をめざせばいいのか? を考えてみたらいいのかもしれない。以前、「生徒指導の目標を忠実に追究していけば、自然に児童・生徒の非行化の防止として効果をあげることにもなる」と教えてもらったことがあります。生徒指導が、すべての教育活動の基盤になっていることを裏付けていることを意味しているようです。

文責: スギタ